

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 豊田		
所在地	下関市豊田町中村7-1		
電話番号	083-767-0058	事業所番号	3577800414
法人名	医療法人 社団千葉クリニック		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 7 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 7 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	13 人	常勤 7 人 非常勤 6 人 (常勤換算 13 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 31,000 円	敷金	有 200,000 円
保証金	無	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
その他の費用	月額	27,990 円	
	内訳	光熱水費 18,000円 日常生活費 330 × 30 = 9,990円	

(4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者数	8 名		男性	1 名	女性	7 名
	要介護 1			要介護 4	2	
	要介護 2			要介護 5	5	
	要介護 3	1		要支援 2		
年齢	平均 88.2 歳	最低	78 歳	最高	98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 千葉クリニック、甲斐クリニック 歯科 中村歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者の写真入りカレンダーが掲げてある共用空間は明るく、料理の匂いや職員と利用者の談笑が聞こえてくる居心地の良い空間です。毎日、一人ひとりのペースを大切にしながら生活できる職員体制で、余裕のある人員確保ができています。介護度の高くなってきている利用者の入浴も職員2人体制で車椅子の人達もゆっくり楽しめる支援をしています。また、拒否される方には、時間を変えたり、職員を変えたりと工夫をしています。

(特徴的な取組等)

食事の大切さを認識しており、栄養士を中心に三食ともホームで調理しています。好みも把握していて、肉の嫌いな人には魚を、誤嚥しやすい人にはきざみやとろみの対応をすると共に、水分補給時の誤飲を防ぐためにゼリー状にする等の細かな配慮をしています。感染症の予防について周知徹底すると共に、情報収集に努め、流行に随時対応しています。また、居室、手すりの消毒を定期的実施したり、うがい、手洗いの励行、ペーパータオルの使用など、予防に取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

ホーム便りの発行、苦情相談窓口の外部機関の明示と第三者委員の選任にも取り組まれています。緊急時に備えての勉強会もされ始めましたが、定期的な訓練には至っていません。しかし、評価結果を職員と話し合い改善に努めています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価表をコピーし、4名の職員に配布、記入されたものを施設長と管理者が検討、記入後に職員会議で項目ごとに検討して仕上げました。職員から振り返りや見直しができ、問題点が見えてくるという声も上がってきています。

(運営推進会議の取組状況)

2カ月に1回の開催、メンバーは自治会長、班長、前自治会長、総合支所福祉課長、包括支援センター職員、家族代表、理事長、施設長、管理者、計画作成担当で近況報告、評価結果報告、ホーム便り、行事、災害時についての意見交換、職員の離職・異動の説明などしています。

(家族との連携状況)

ホーム便りに、運営推進会議の内容、行事予定、職員の離職・異動の連絡、暮らしぶりなどを記載して、担当の職員が一人ひとりの状況報告を手書きで書いた手紙と一緒に送付しています。家族の訪問時に、要望や意見等を聞いています。また、必要時には電話連絡もしています。

(地域との連携状況)

地域の方が雛人形や鯉のぼり等を持ってきて竿もたてて貰いました。園児、小学生、中学生、高校生と演奏や体験学習、行き帰りの挨拶など、楽しく交流しています。また、大学生の実習の受け入れもしています。地域の夏まつりに参加したり、近隣のスーパー、消防署、銀行、警察の協力を得ています。年1回のお楽しみ会には地域の方々に参加を呼びかけています。

評価結果

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「心と心のふれあいを大切に家族的なケア」と「地域とともに入居者のケア」などの文語を入れた地域密着型サービスとしての役割を旨とした理念を、5月末に管理者が中心となり、スーパーバイザーと検討して作り変えている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念の必要性と共有の意義を考えつつ、玄関や共有空間、事務室に理念を掲示し、内部研修、職員会議、申し送り時に共有できるよう話し合い、実践に努めている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の方が雛人形や鯉のぼり等を持って来られたり、散歩の途中で近所の親子連れと会話や歌を楽しんだり、夏まつりに参加している。園児(演奏、豆まき)、小学生(来訪交流)、中学生(体験学習)、高校生(行き帰りの挨拶)、大学生(実習)などの訪問がある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>ガイドブックを購入後、自己評価表をコピーし、4名の職員に配布、記入したものを管理者と施設長が検討、記入後に職員会議で項目ごとの検討後に仕上げた。外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組むと共に、振り返りの機会として質の向上に努めている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、メンバーは自治会長、班長、前自治会長、総合支所福祉課長、包括支援センター職員、家族代表、理事長、施設長、管理者、計画作成担当で、近況報告、評価結果報告、行事、災害時についての意見交換をしている。職員の離職や異動の説明などもしている。</p>	<p>・メンバー拡大の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域ケア会議等に出席している。包括支援センターに電話で相談することも多く、年1回のお楽しみ会には、行政関係者にも参加をお願いして、サービスの質の向上の協力を得ている。</p>	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホームだよりに行事予定、職員の異動や離職の連絡、暮らしぶりなどを記載して、担当の職員が一人ひとりの状況報告を手書きした手紙と一緒に送付している。家族の訪問時には要望や意見等を聞き、必要時には電話連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情解決体制を明示すると共に、苦情処理の手続きを定めている。訪問時や電話で意見や要望を聞いているが、スーパーバイザーを中心に相談や意見を出しやすい体制をさらに検討中である。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤6名で4人体制6時間、早出、日勤、遅出、夜勤となっており、利用者の状況に応じた勤務変更もできる体制になっている。希望休を聞き、勤務シフト上も無理のない勤務になるよう努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホームだよりで異動や新人職員の紹介をしている。また、運営推進会議で説明している。関わりの深い担当者場合は家族に事前に知らすと共に、一日でも早い利用者との信頼関係が築けるよう全職員でフォローする支援をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として、常勤、非常勤に関係なく段階的に研修に参加し、復命している。月に1回、スーパーバイザーの指導による施設内研修(1回3人程度)を行い、働きながらのトレーニングを進めている。記録、資料も整備されている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、地域ブロック研修会に参加し、学習会、事業所見学や意見交換等で交流している。地域ケア会議にも参加している。また、管理者が近隣の2グループホームと意見交換をして、職員と共有して質の向上に努めている。	

項目		印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に事前訪問調査をし、顔馴染みになれるよう心掛けている。入居してしばらくは、家族に協力を依頼して、面会の回数を増やすことにより、利用者が安心して馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者は家族の一員という意識を持ち、日常会話の内容をケース記録に記入したり、家族から情報提供を受けるなどして、本人の思いを探るよう努力し、穏やかな日常生活が過ごせるよう支援している。時には、職員が悩みや愚痴を聞いてもらい、利用者にはアドバイスを受ける場面もある。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者の生活歴や日々の言動から思いや意向を把握し、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には家族、知人より話を聞くよう努めている。本人の思いや希望を職員もミーティングや会議で共有している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意見や要望を聞き、月1回2～3人のカンファレンスを作成している。担当者が利用者に必要なプランをたて、検討後に計画作成担当者がそれぞれのアイデアや意見を反映した計画を作成する。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画の短期、中期、長期の目標の遂行状況、効果などを評価すると共に、ミーティング時に気づいた状態変化について、家族や本人の要望に応じて新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人や家族の状況に応じて通院や見舞い、自宅訪問、敬老会などその時々に応じて柔軟な支援をしている。</p>	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他に、本人、家族の希望の病院の受診も可能で、家族と協力し通院介助の方法、情報の伝達について話し合ったり、往診の支援もしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時の早い段階に家族の意向を聴き、ターミナルケアを受け入れている。職員会議やケアカンファレンス時に全職員が方針を共有できるようにすると共に、重度化していく中で、本人にとっての良い暮らし、支援は何かと考えながら取り組んでいる。指針、同意書も作成保管している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	内部研修などで、意識向上を図ると共に、一人ひとりの誇りを大切に、言葉かけに注意しながら対応している。記録物は鍵のかかる所定のロッカーで保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりが自分で選べるよう選択肢の提案に心がけている。内部研修での接遇や管理者の毎日のミーティング時のアドバイス等で一人ひとりのペースを大切にしている。介護を受けずに自分の思うようにゆっくりと食事をされている人もいた。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	介護度の高い利用者が多い中、3食調理をし、出来る役割を利用者と一緒に行い、一緒に食卓を囲み、会話も弾む楽しい食事風景だった。好みを把握して、肉の嫌いな人には魚を、青魚が駄目な人には白身魚などの配慮もしている。おかゆ、刻み、とろみ等の支援もしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は14時から17時ぐらいで、利用者の希望する時間でゆったりと入浴を楽しめる支援をしている。2人介助、車椅子介助の入浴や、清拭、シャワー浴の対応もある。拒否する場合には、時間を変えたり、職員を変えたりと工夫している。	

項目		印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を活かした活躍ができるよう、調理の準備、片付け、掃除、野菜の収穫、歩行訓練、ラジオ体操、読書、塗り絵、ちぎり絵等の趣味や楽しみ事、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や周辺の散歩、季節の花見(藤、桜、コスモス)、ほたる祭りへの参加や弁当持参のハイキングなど、利用者本位の外出支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ミーティング、職員会議等で職員の言動を振り返り、自覚しない身体拘束をしていないか話し合い、支援に取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出しそうな様子を察知した場合は、一緒に移動したり、さりげなく声かけをしていくなど、その日の状況を把握するように努め、日中は鍵をかけず自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと・事故報告書の記載様式を工夫し、全職員が共有して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組み、家族への説明と報告を行なっている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、連絡網や関係機関の連絡体制は整備している。また、職員会議やミニ学習会で看護師が指導をしているが、全ての職員が応急処置の対処方法を身に付けているとはいえない。	・定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害訓練は年1回で夜間想定訓練は実施していない。地域の協力体制については、運営推進会議で検討中である。非常用食糧、備品については現在は準備していない。	・夜間想定訓練の実施 ・災害に備えた備品等の準備

項目		印 (取組みを期待したい項目)	取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	看護師の指導、管理の下に一人ひとりの薬の内容(用法、用量、副作用など)を全職員が把握しており、手渡しし服薬確認をしている。必要な情報は看護師、医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの支援をすると共に、歯科医の訪問時には、利用者それぞれに応じたケアを習っている。歯ブラシは早めに交換、義歯は週1回の清掃、保管の支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を記録すると共に、一人ひとりの好みも把握して、栄養士の管理のもと栄養バランスにも配慮している。水分はゼリー状にして摂取しやすくしたり、おかゆや刻みなど個別の食の支援もしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、全職員に周知徹底すると共に、発生状況の情報収集に努め、流行に随時対応している。手洗い、うがいの励行、ペーパータオルの使用、居室の消毒(月1回)、手すりの消毒(週2回程度)など、日常的に予防に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	事務室からも台所からも利用者の状況を見渡すことができ、広過ぎず、狭過ぎず、みんなが自然に寄り集まっている共用空間となっている。廊下には家族が撮られた写真や利用者がモデルとなった事業所独自のカレンダーも見ることができ、料理の匂いや道行く人や車、隣の田の稲の成長も見られ、生活感、季節感にあふれている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、鏡台など使い慣れた物や、テレビ、時計、ソファなど生活スタイルに合わせた物が置かれていて、居心地良く過ごせる工夫がされている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム豊田
所在地	山口県下関市豊田町中村7-1
電話番号	083-767-0058
開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日

【サービスの特徴】

自然に囲まれ季節を感じながら過ごす事ができ、施設の近隣には、スーパー、道の駅、温泉等利便性に富み、地域との関わりを持ちながら生活できる。一人ひとりの方に対し今何が必要か、その方らしく過ごすにはどうすべきかを常に考えながら日々の援助を心掛けている。医療併設型で医師が常時待機しており、緊急時や夜間の対応も充実している。介護福祉士を中心に看護師、栄養士が総合的な援助を行っています。広い家庭菜園に季節の野菜、花の園芸をボランティアの指導にて行っています。

【実施ユニットの概要】 (6月20日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	8 名	男性 1 名	女性 7 名	
	要介護 1		要介護 4	2人
	要介護 2		要介護 5	5人
	要介護 3	1人	要支援 2	
年齢構成	平均 88.2 歳	最低 78 歳	最高 98 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価を職員にも答えてもらい、集計を取り記入する。
評価確定日	平成 20 年 6 月 20 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	<p><u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
6	<p><u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p><u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	地域の研修や啓発の場に出かけ、認知症ケアの啓発や地域の方から気軽に相談等受け入れられるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、職員と共に行い、外部評価の結果は職員会議等で報告し、改善に向けて取り組んでいる。	○	期日を取り決め具体的改善に努めたい。
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議では、ホーム内、入居者様の状況等報告し各出席者の方々にも意見を頂き、サービスに結びつけるように努めている。		
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議等の出席や、事業所の行事に参加して頂くなど関係づくりをしている。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	成年後見が必要なケースが現在まで無かった為、学ぶ機会がなく職員の理解も不十分である。	○	勉強会を開き理解を深めるよう努め、地域が主催する研修等参加していきたい。
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での虐待については、常に注意を払い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、時間をとり利用料金、ケア方針等の説明を行い理解、納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から思いを察する努力しているものの、思いを聞き出す働きかけが不十分。	○	利用者の状況にもよるが定期的に思い、意見を発言できる場面を作りたい。
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の訪問時には、日頃の様子を報告し、月に1度近況報告、場合によっては電話での報告に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p> <p>利用者からの開示は現在までない。ご家族からの開示には応じている。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p> <p>ご家族には来訪時や近況報告等で意見など頂けるようにしている。また、相談、苦情を受け付ける窓口も明示している。</p>	○	<p>家族会を増やし、家族同士の話し合いの時間を作り、気軽に発言できる機会を持ちたい。</p>
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>常に職員の意見、要望など聞くよう心掛けている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>入居者の状況に応じた勤務時間と、その都度必要に応じて職員配置を考えている。また、職員の急な休みの時など対応できるよう余裕のある人員確保ができています。</p>		
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>顔なじみの職員によるケアを心掛けているが、その反面離職者もあり、その都度入居者やご家族には報告し、一日でも早く信頼関係が築けるよう努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>定期的な事業所内の研修を行い、その他の研修に関しても職員、パートに関係なく参加している。</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p> <p>多様な職員配置に心掛けている。</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホーム連絡会での学習会、事業者見学などで交流を持ちサービスの質の向上に繋げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の話を聞く等ストレスや悩みを把握するよう努めている。また、定期的な食事会を行うようにしている。	
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	無理のない勤務状態を心がけ、職員個々の取り組み、姿勢の把握に心がけ、資格所得に向けた支援を行っている。	
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	日常の業務や入居者との関わり、接遇等よく観察し適切な評価に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面談時に本人の話をよく聞き生活状況思い等理解に努めている。利用にあたっては事前に職員へ利用者情報を伝え、把握したうえで迎えるよう努めている。	
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	これまでの経緯について一つ一つ聞くようにしている。ご家族の思い事業所がすべき事、できる事等話し合っている。	
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で入所希望の方ばかりですすでに他のサービスも利用している事が多い。	○ 早急な対応が必要な相談者には地域と連携しながら他のサービス機関に繋げて行きたい。
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居してしばらくは家族の協力をお願いし、面会の回数を増やして頂いたり少しでも安心感を持って頂けるよう努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側、される側という意識を持たず家族という意識をもって本人の思いを探るよう努力し、日常を穏かに過ごして頂けるよう環境作りに心掛けている。また、職員が悩みや愚痴を入居者の方に聞いてもらいアドバイスを受ける場面もあ	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者の様子を伝えながら家族でしか分らない事などの情報提供を頂きながら本人を支えていく為の家族と職員の思いをまとめ支援に繋げている。</p>	
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>日頃より本人の様子を伝え、来訪時には必ず職員も本人と家族の間に入り話題の提供をしたり行事の参加を促した良好な関係の継続に努めている。</p>	
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの知人、友人の面会を促したり、話題に持ち出したりドライブ等で馴染みの場所に行ったりしている。</p>	
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>お茶、食事の時間に職員が間に入り利用者同士の良好な関わり合いが保てるよう努めている。</p>	
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>他の事業所に移られた方に対し継続的な関わりは現在取られていない。</p>	<p>○ 今後、継続的な関わりを必要とする方にたいしては面会、手紙等の方法で関わりを持つようにしていきたい。</p>
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で把握するよう心掛けている。また、本人にとって今何が一番大切で必要であるか家族とも検討している。</p>	
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>アセスメントでより細かい情報提供して頂き、入居後も本人や家族、知人の方より話しを聞くよう努めている。</p>	
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>それぞれの生活リズムや習慣の把握に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃より本人の思いの把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族の思い意思を聞きカンファレンスを行っている。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人の状態に変化が生じた場合検討見直しを行っている。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録に細かい日常の様子を記入し、食事摂取、水分、排泄、本人の言葉等記録し介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて通院の必要な支援は柔軟に対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの協力を呼びかけたり、普段より消防署との連携を取っている。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	施設見学は常に受け入れている。また、ボランティア、研修の受け入れも積極的に行っている。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問理容院、送迎付き美容院の利用。	○ 必要となった時の為に、地域の介護支援専門員や事業所との関わり合いも日頃より大切に行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	事業所内で解決出来ない問題が生じた場合地域包括支援センターと協働し本人本位の支援に繋げたい。
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	○	家族と専門医師との関係のみで今後は職員も相談、指示、助言が受けられるよう関係作りをしていきたい。
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	個々別に具体的に検討、準備を行って行きたい。また、事業所ができる事、できない事を再確認していきたい。
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	職員の意識向上を図り日々の振り返りの機会を作りたい。
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	○	その方の能力に応じた上でもっと生活の一部である家事への取り組みを積極的に行って行きたい。
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○	職員間のチームワークを強化し取組んで行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		美容院に行きたい方は送迎のある美容院へ、カット毛染めは地元理容店に定期的に訪問して頂いている。季節、その日の体調、行事に合わせてその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		季節を五感で感じて頂く事も大切に、しその時期にホームで収穫した野菜や職員宅より持参したものを皆で楽しみながら一緒に下ごしらえ片付けをしている。
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		おやつの時など食べたいおやつ、飲み物を選んで頂けるよう支援している。
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		オムツをしている場合でも体調、状態に合わせてパンツに切り替えたり、排泄パターンをチェックし排泄誘導に心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	○	個々の希望を聞き、ゆっくりくつろいで入浴を楽しんで頂けるよう支援して行きたい。
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	○	個別に出かけてみたい場所を見極め実現に向けて取組んでいきたい。
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○ <u>家族が参加しやすい行事の実践</u> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	個々の誕生会やクリスマス会等行事には家族の方の参加を促している。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	○ <u>身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	徘徊などがある場合一緒に移動したり見守り体制を十分にし様子の把握に努めている。自立歩行困難な方についてもソファへの移動や歩行訓練を行い車椅子の時間を少なくする様抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	○ 自覚のない言葉の拘束など職員の共有認識を図って行きたい。
75 (28)	○ <u>鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の見守りを徹底し日中の玄関の施錠はせずに取り組んでいる。居室は昼夜問わず施錠はしていない。	
76	○ <u>利用者の安全確認</u> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者のそばで記録等を行い、入居者の状況の把握に努めている。夜間は定期的な巡視を行って安全に配慮している。	
77	○ <u>注意の必要な物品の保管・管理</u> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じて対応している。異食行為のある方には危険物を取り除く事や、保管管理の必要なものは厳重に管理している。	
78 (29)	○ <u>事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを記入し原因を見極め職員の共有認識を図っている。今後の対策についても検討している。	
79 (30)	○ <u>急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署より来設して頂き訓練を行ったが定期的な取り組みがなされていない。	○ 事業所内でも勉強会を行い定期的な訓練を取り入れて行きたい。
80	○ <u>再発防止への取り組み</u> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生した場合、事故報告書、ヒヤリハットに記録し再発防止に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<p>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
91 (36)	<p>〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>		
92	<p>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
93 (37)	<p>〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
94	<p>〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<p>〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>		
96	<p>〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
97	<p>〇建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの ②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> ③たまにある ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと ②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> ③たまに ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="checkbox"/> ③あまり増えていない ①大いに増えている ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが ①ほぼ全ての職員が ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが ①ほぼ全ての利用者が ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが ①ほぼ全ての家族等が ④ほとんどできていない